

4 愛知県民の健康等の状況

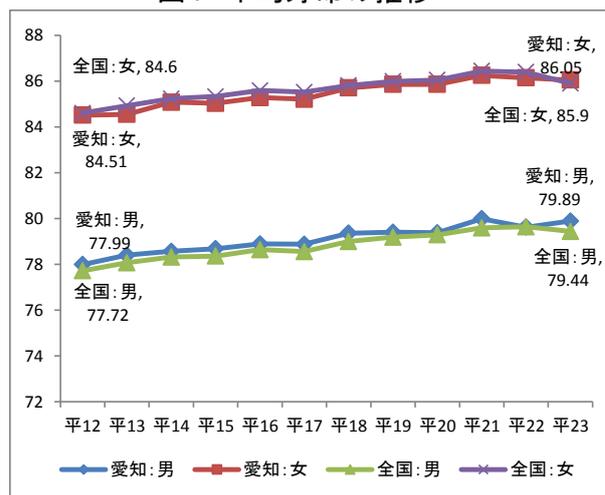
平均寿命は男女とも延伸

	<平成12年>		<平成23年>
○ 男性	77.99 歳	→	79.89 歳 (+1.90 年)
○ 女性	84.51 歳	→	86.05 歳 (+1.54 年)

平均寿命を、平成23年の全国値と比較すると、男性は全国の79.44歳を0.45年、女性は全国の85.90歳を0.15年上回っています。(図1)

また、平成12年と平成23年を比較すると、県は男性で1.90年、女性で1.54年伸びており、全国と比較(男性:1.72年、女性1.30年)すると、男性は0.18年、女性は0.24年上回っています。

図1 平均寿命の推移



(資料: 厚生労働省「人口動態統計」及び「愛知県民の平均余命」)

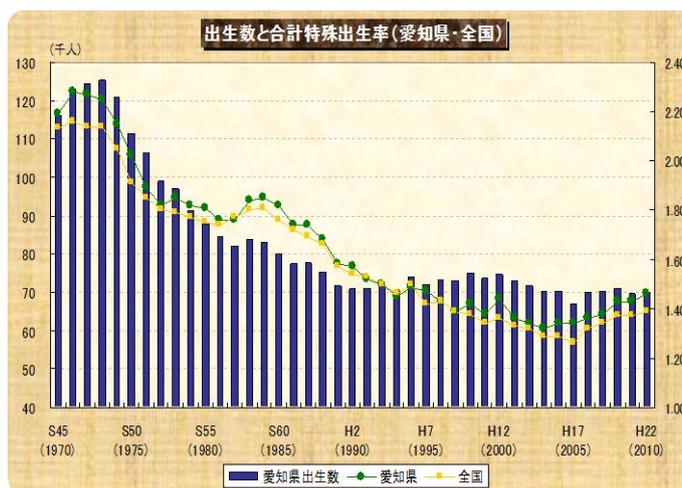
少子化が進展、人口減少社会へ

○ 出生数	<昭和48年> 125,395 人	→	<平成12年> 74,736 人	→	<平成23年> 68,973 人
○ 合計特殊出生率	<昭和46年> 2.28	→	<平成12年> 1.44	→	<平成23年> 1.46

出生数は、第2次ベビーブームであった昭和48年をピークに減少傾向となっています。

合計特殊出生率については、昭和46年以降減少傾向にあり、平成15年に過去最低(1.32)となった後、若干回復しましたが、依然として安定的に人口を維持するために必要な2.07を大きく下回る状況が続いています。(図2)

図2 出生数と合計特殊出生率の推移



(資料: 厚生労働省「人口動態統計」)

高齢化の進展により、特に75歳以上の高齢者が増加

	<平成12年>	→	<平成22年>	→	<平成32年推計>
○ 65歳以上高齢者	102万人		150万人		188万人(1.84倍)
○ 75歳以上高齢者	39万人		65万人		97万人(2.49倍)

高齢者人口(65歳以上)は平成32年には188万人に達し、平成12年の約1.84倍になると見込まれています。団塊の世代が65歳以上となる平成27年をピークに愛知県の高齢化率上昇のスピードは緩やかになりますが、75歳以上の高齢者については増加が著しく、平成32年には97万人に達し、平成12年の約2.49倍になると見込まれます。

(図3、表1)

また、今後、高齢化率が比較的低い都市部や新興住宅地等で、高齢者人口が急増することが予測されます。(図4)

図3 人口の将来推計(愛知県)

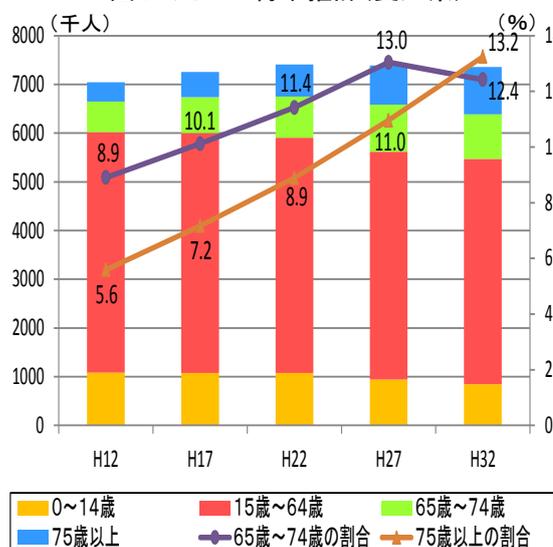


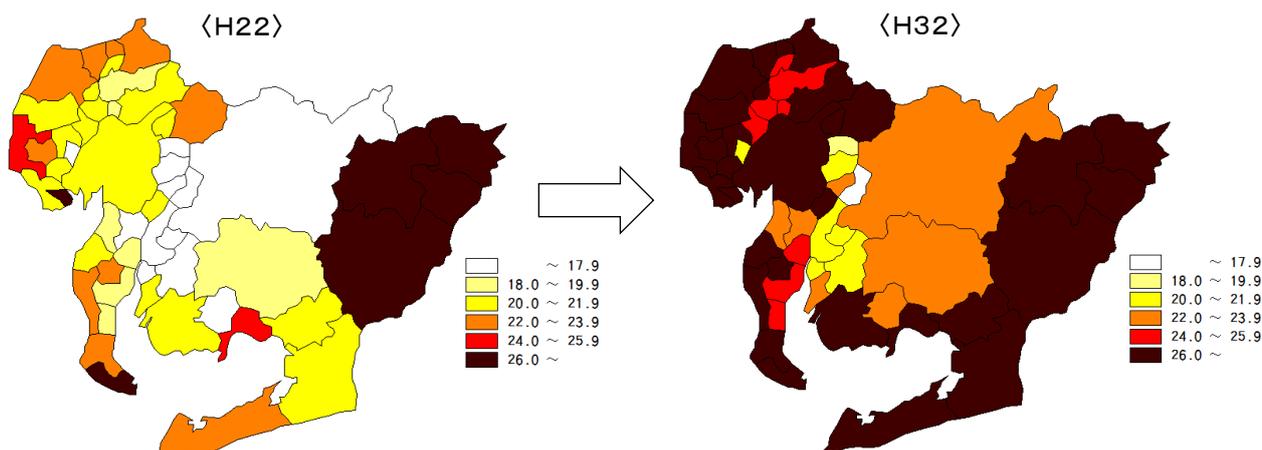
表1 人口(年齢区分別)の将来推計

(千人)

		0~14歳	15~64歳	65歳以上	65歳 ~74歳	75歳以上	計	65歳以上 の割合	65歳 ~74歳	75歳以上
全国	H12	18,531	86,310	22,085	13,073	9,012	126,926	17.4%	10.3%	7.1%
	H22	16,932	81,654	29,471	15,291	14,180	128,057	23.0%	11.9%	11.1%
	H32	13,201	73,635	35,899	17,162	18,737	122,735	29.2%	14.0%	15.3%
愛知県	H12	1,085	4,937	1,021	627	394	7,043	14.5%	8.9%	5.6%
	H22	1,074	4,832	1,505	846	659	7,411	20.3%	11.4%	8.9%
	H32	849	4,621	1,889	914	975	7,359	25.7%	12.4%	13.2%

(資料: H12, H17, H22 年総務省統計局「国勢調査」、愛知県県民生活部「あいちの人口」
H27, H32 年「日本の都道府県別将来人口推計(平成19年5月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所))

図4 市町村別高齢化率の推計(65歳以上人口の占める割合)



(資料: H22 年愛知県県民生活部「あいちの人口」
H32 年「日本の都道府県別将来人口推計(平成19年5月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所))

世帯構成が変化し、特に高齢者単独世帯が急増

	<平成12年>	<平成22年>	<平成32年推計>
○ 単独世帯	66万世帯	86万世帯	98万世帯
		(1.30倍)	(1.14倍)
○ 高齢者単独世帯	12万世帯	21万世帯	31万世帯
		(1.75倍)	(1.48倍)

都市化の進展や産業構造の変化により世帯構成にも変化が生じます。三世帯同居世帯が減少し、核家族世帯や夫婦のみの世帯、単独世帯が増加するなど世帯人員が減少しつつあります。特に単独世帯の増加が大きくなると予測されています。(図5)

また、高齢者世帯についても、ひとり暮らしや夫婦のみの世帯の増加が見込まれています。(図6)

図5 世帯構成の将来推計(愛知県)

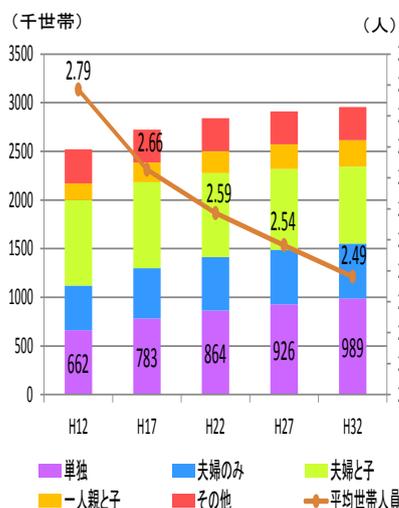
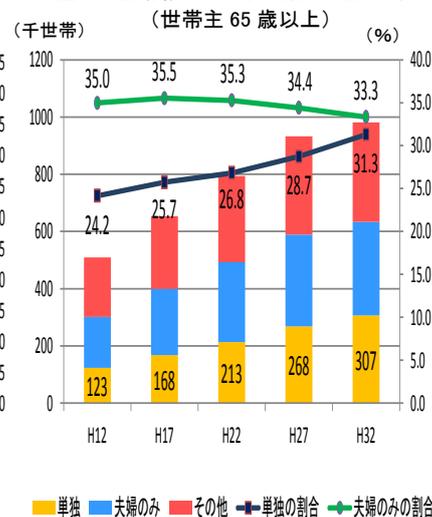


図6 世帯構成の将来推計(愛知県)



(資料: H12, H17, H22 年総務省統計局「国勢調査」、愛知県県民生活部「あいちの人口」
H27, H32 年「日本の都道府県別将来人口推計(平成19年5月推計)」
(国立社会保障・人口問題研究所))

年代別死亡者数は男女で差があり、男性のピークが先に訪れます。

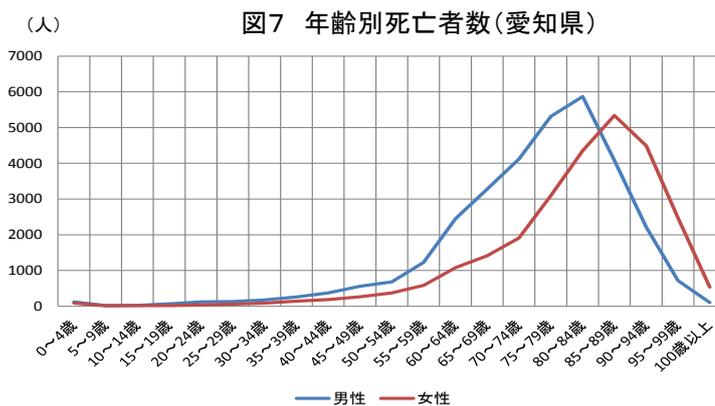
「がん(悪性新生物)」が死因の3割を占め、「心疾患」「脳血管疾患」を含めた「生活習慣病」が半数以上を占めます。

- 死亡者数のピーク 男性 80~85歳(全体の18.4%)
女性 85~90歳(全体の20.1%)
- 平成22年死因別死亡割合(生活習慣病)

がん(悪性新生物)	29.5%	心疾患	15.8%
脳血管疾患	10.3%	糖尿病	1.2%

年齢別の死亡者数をみると、男性は60~64歳以降に上昇を始め、80~84歳にピークを迎えます。女性は65~69歳以降上昇を始め、男性より少し遅れ、85~89歳がピークとなっています。(図7)

図7 年齢別死亡者数(愛知県)



(資料: 愛知県「平成22年衛生統計年報」)

生活習慣の改善や医学の進歩により、年齢調整死亡率は減少していますが、死因別にみると「がん（悪性新生物）」は死因の約3割を占めるとともに、「心疾患」、「脳血管疾患」を含めると半数以上が生活習慣病となっています。（図8、9）

図8 年齢調整死亡率（人口10万人あたり）の推移（愛知県）

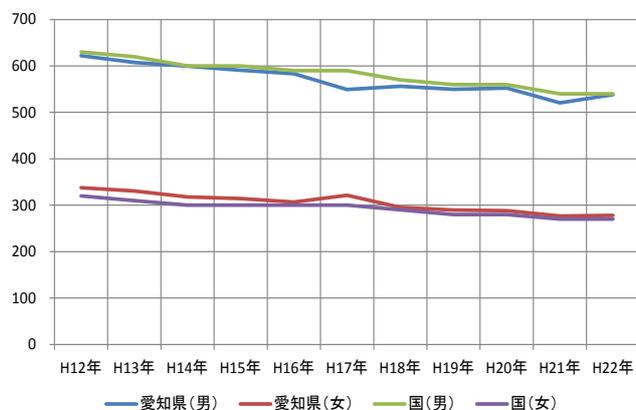
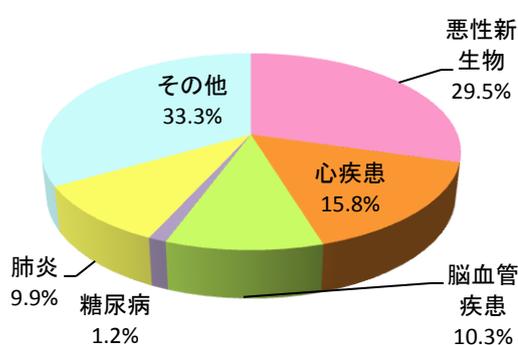


図9 死因別死亡割合（愛知県）



（資料：厚生労働省「人口動態統計」、愛知県「衛生統計年報」）

要介護・要支援の認定者のうち、約2割が75歳未満です。

	<平成12年度末>	→	<平成22年度末>
○ 要介護・要支援認定者数	10万4千人		22万4千人（2.15倍）
うち 65歳～74歳 <全体の割合>	2万2千人 <21.2%>	→	3万3千人（1.50倍） <14.7%>
うち 75歳以上 <全体の割合>	7万9千人 <76.0%>	→	18万2千人（2.30倍） <81.3%>

要介護・要支援認定者数は年々増加しています。

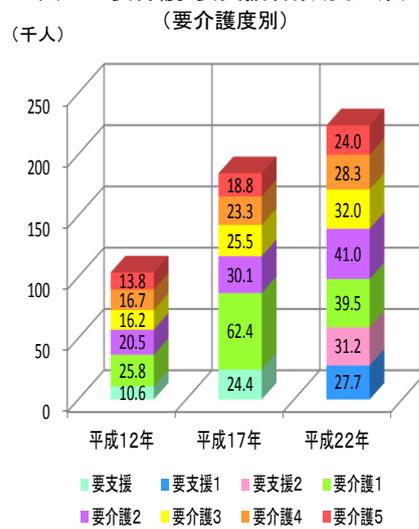
平成22年度末には22万4千人に達し、平成12年度末の約2.2倍となっています。

また、平成22年度末の要介護・要支援認定者のうち、75歳以上が18万2千人おり、全体の約8割を占めています。（図10、11）

図10 要介護・要支援者数（愛知県）



図11 要介護・要支援者数（愛知県）



（資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」）

医療や介護に要する費用が年々増大しています。

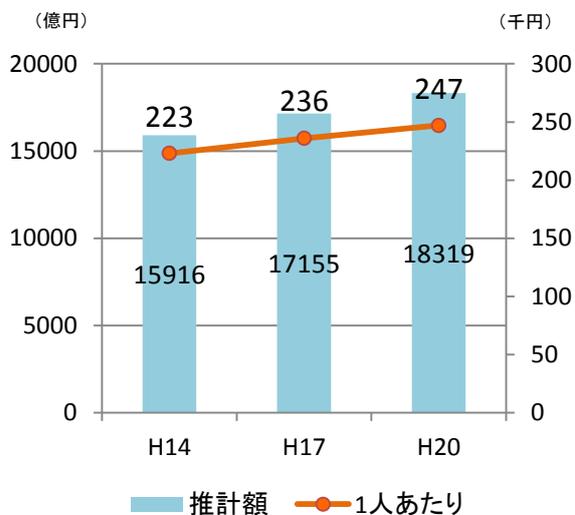
	<平成14年度>	→	<平成20年度>
○ 医療費	1兆5,916億円		1兆8,319億円 (1.15倍)
○ 介護給付費	2,116億円		3,031億円 (1.43倍)

高齢化の進展により、医療や介護にかかる費用が増大しています。愛知県の医療費は、平成20年度に1兆8,319億円に達し、平成14年度の1.15倍となっています。

また、介護給付費は、平成20年度に3,031億円に達し、平成14年度の1.43倍となっています。

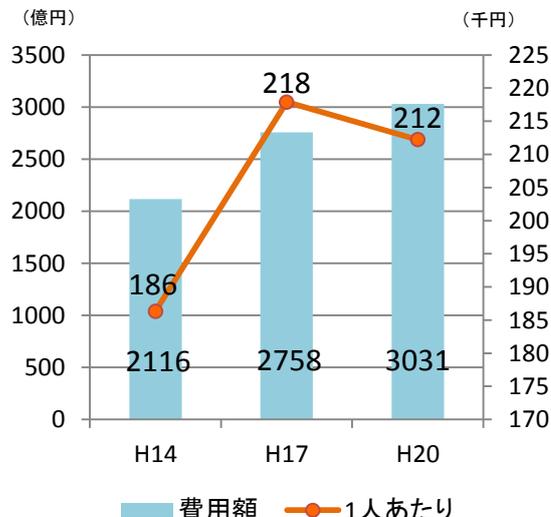
(図12、13)

図12 医療費(愛知県)



(資料:厚生労働省「国民医療費」)
※「一人あたりの金額」は「推計額」を「人口」で除したもの

図13 介護給付費用額(愛知県)



(資料:厚生労働省「介護保険事業状況報告」)
※「1人あたりの金額」については「介護給付費用額」を「第1号被保険者数(65歳以上)」で除したもの